

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	85	実施計画番号	7
事務事業名	市民参加による緑化の推進(オープンガーデンとわだ)		事業開始年度 平成20年度
担当課名	都市整備建築課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	緑と花のまちづくり推進条例	関連事務事業	
背景や経緯等	昭和47年十和田市条例第13号「十和田市緑と花のまちづくり推進条例」の制定し花壇コンクール及びオープンガーデン事業を実施してきたが、平成23年度に事務事業評価の提言を受け花壇コンクールを凍結し、現在、オープンガーデン事業により緑化の推進を行っている。		
事務事業の目的	美しい庭園の事例を広く市民に紹介することにより、緑化に関心を持つ市民の増加と交流を活性化させることにより、花と緑のまちづくりの啓もう普及を行う。		
実施状況	最近2年間の参加人数は、平成23年度12件、平成24年度20件		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	36	16	16
	人件費(千円)	1,296	576	576
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		420	198	254
うち一般財源		420	198	254
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

【指標】

活動指標	活動指標名①		オープンガーデンとわだ参加数			
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
			件	12	20	23
	活動指標名②					
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
成果指標	成果指標名①		オープンガーデンとわだ参加数			
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		件	目標値	30	30	30
			実績値	12	20	
			達成度(%)	40%	67%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
			目標値			
	実績値					
	達成度(%)					

十和田市事務事業評価シート

整理No	85
計画No	6

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		市民に、個人や団体の庭作りを紹介し、地域交流を活性化させることにより、緑化の推進をしている。	
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		近年、参加人数も増加しており、市民の関心も高まって、今後も参加人数の増加を期待したい。	
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		以前、花壇コンクールを開催していたときは、賞状や賞品等のコストが発生していたが、オープンガーデンとわだでは、参加賞のみの配布で、コストを削減している。	
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		参加者及び観賞者は、広報、ホームページ、パンフレットにより広く募集しており誰でも参加できる。	
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
緑化の推進と意識の高揚を図るため、オープンガーデン事業に一本化して実施している。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
市民が丹精込めた庭園を公開し、より多くの市民が美化意識を持ち交流することにより、緑と花による美しいまちづくりに関心を持つ市民が増加することが期待できる。